

止まり木



令和7年（2025年）

12月23日発行

第30号

大阪市立野田中学校

自信・不信・過信

終業式

早いもので2学期の終業式がやってきました。みんなとともにこの日を迎えることができてうれしく思います。では、姿勢を正して、リラックスをして、目を閉じましょう。この2学期を少し振り返りたいと思います。真夏のような暑さで始まった2学期。万博にも行きました。完全に部活動を引退した3年生もいました。文化発表会での合唱コンクールの素晴らしいハーモニー、体育大会での各学年の盛り上がり、3年生の「ソーラン」。かっこよかったです。テストもたくさんありました。そしてそして、一昨日は、M-1でたくろうが王者となりました。見ましたか？面白かったです。そして、今日があります。

では目を開けてください。どうでしょうか？もっともいろいろなことがあったと思います。このようにみんなは、日々新しい課題に出会います。その課題とは、勉強のことや部活動のこと、進路や人間関係のことなど様々です。そして、その課題を乗り越えるために、様々な挑戦をすることになります。ところで、みんなは何かに挑戦するときに、「それを確かに自分がやり遂げることができる」という『自信』をもっていますか。『自信』とは自分を信じるということで、逆に、自分が信じられないことを『不信』と言います。また、自分を信じ過ぎることを『過信』と言います。ですから『自信』は、この『不信』と『過信』の間に存在するのです。

例えば、「自分は何をやってもダメだ」とか、「きっと失敗するに違いない」とかいう悲観的な考え方は『不信』という状態です。つまり、課題を乗り越える自分を想像できないのです。逆に、確たる理由もないのに「自分はきっと成功するから大丈夫」という楽観的な考え方方は『過信』につながります。いわゆる根拠のない『自信』ですね。それでは、どうしたら本当の『自信』がもてるようになるのでしょうか。それは、課題に挑戦するときに、「『自信』がある」とは、時間と労力を費やし、「自分はこれだけ頑張ってきた」と思えることです。何の準備もしないままに、始めから失敗すると決めつけるのは『不信』、成功すると決めつけるのは『過信』です。

失敗するかもしれない不安があるからこそ、成功するために地道に努力する。根拠のない自信と言うべき『過信』がないからこそ、じたばたするのです。自分が信じられるために必要なのは、その課題に当たって努力した時間の積み重ねだけです。自分が努力した事実には、嘘がありません。だからこそ、「これだけやったのだから大丈夫だ」と思えるまで、しっかり、じたばたすれば良いのです。

どうか、本当の『自信』が持てるよう、この冬休みも頑張ってください。元気に3学期の始業式を迎えましょう。

2学期終業式より

保護者の皆様へ

保護者の皆様、本日で2学期が無事終了いたしました。上述したように2学期は大きな行事がたくさんあり、中身の濃い学期となりました。子どもたちもその一つ一つの行事を終えるたびに成長してくれていると実感しています。もちろん失敗するときもありましたが、そんな子どもたちを暖かく見守り、支え、そして学校をいつも応援いただいたこと、深く感謝いたします。本当にありがとうございました。あわただしい年の瀬を迎えますが、子どもたちの安全・安心を第一に過ごしていただき、皆様にとっても素晴らしい年末年始となることを心よりお祈りいたします。

